

経験が夢を生む

株式会社ジンジブ
キャリアコンサルタント部主任

わたなべたくや
渡辺琢弥さん



株式会社ジンジブとは

高校生のための求人サイト「ジョブドラフト」を運営し、高校生の新卒就職にまつわる人事支援を行っています。

—仕事内容—

1人でも多くの学生のために

高校生や先生の相談に乗る仕事をしています。高校生には、どんな所に就職したいかを聞き「君ならこんな会社が合うと思うよ」という提案をしています。高校の先生には、困っていることを聞き「就職について考える授業をやってほしい。」と依頼されたりするので、高校に行って僕たちが授業をすることもあります。

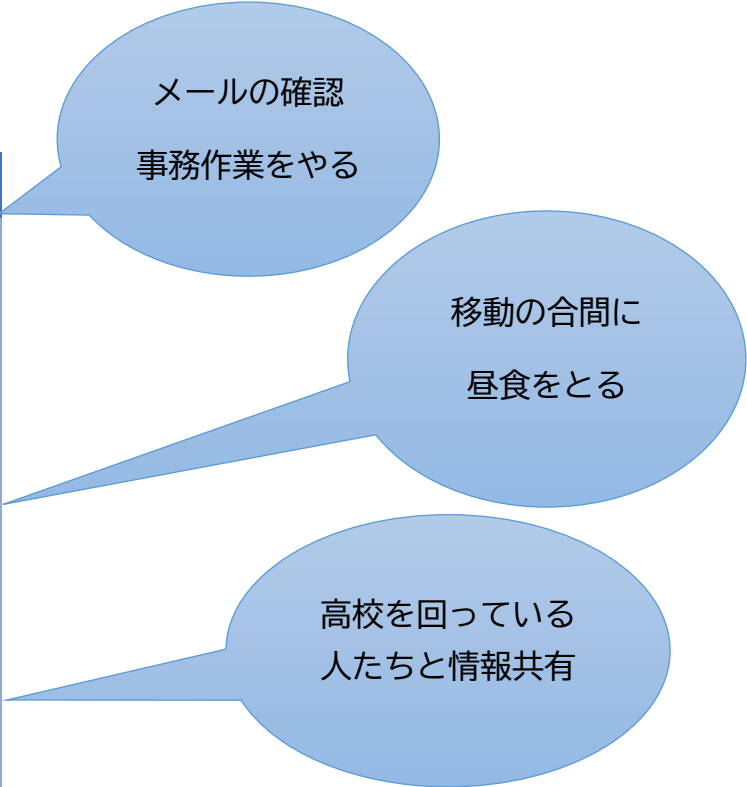
1日に3校ほど学校を訪問しているので、会社にいることはほとんどありません。少数の学校を満足させるのではなく、色々な学校に満足してもらいたいので、担当している、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県の学校を、幅広く訪問しています。

僕は、高校に対しての支援をしていますが、企業に対しての支援を行う人たちもいます。弊社で運営しているジョブドラフトを利用してもらえるように営業にいき、人事採用の支援をしています。

企業担当も、たくさん営業に行き、なるべく多くの企業にジョブドラフトを利用していただくことで、高校生の選択肢を増やしています。

一日のスケジュール

時刻	内容
8:30	出勤
10:00	学校訪問①
11:00	移動
12:00	学校訪問②
13:30	移動
15:00	学校訪問③
16:30	移動
18:00	会社に戻る
19:00	退勤



—仕事を選んだ理由—

経験を活かして働ける仕事



この仕事に就く前は、ジンジブグループ会社の**広告代理店**に勤めていたのですが、入社して一年も経たないうちに会社から「ジンジブをもっと成長させたいから転籍してほしい」と言われたのでこの仕事を担当するようになりました。

前職の広告代理店には華やかなイメージで、「自分のアイデアが形になるのって楽しそう！」と思って就職しました。

大学時代に、CSR(企業が与える影響について責任を持ち、社会の持続的発展のために貢献すべきとする考え方。またその考え方に基づいて実践される諸活動)について研究をしていました。高卒で就職に困っている人をサポートする今の仕事と研究の共通している部分も多く、その**経験を活かし働けているので楽しく感じています。**

—やりがい—

ありがとうの一言

今まで、高校を卒業してすぐに就職する人の気持ちがわからなくて、何らかの問題を抱えている人という偏見を持っていました。しかし、それは誤解で、勉強ができる生徒でも、親を助けるために就職を選ぶ人もいれば、大学に行くなら早く社会に出て自分の実力を試したいからという人もいるということを知り、今までの考えは間違っていたと気がつきました。それから、偏見を持たれて就職活動に困っている学生の夢を叶える手助けをしたいと思うようになりました。



最近、「高校の先生が就活を手伝ってくれない。」と困って相談にきた生徒の、内定が決まり、「渡辺さんのおかげです。ありがとう！」と言ってくれた時は、1人の人生を助けることが出来た感じがしてすごくやりがいを感じました。

—大変な事—

たくさんの経験が成長させる

この会社は設立から6年とまだ若い会社なので、社員も少なく、1人が担当する高校や仕事が多いです。僕自身も、200~300校受け持っているため、この数の高校の生徒の運命に関わると思うと責任は大きく、管理も大変です。

しかし、だからこそ大手では経験できないたくさんの事を早くから任せてもらえ、大変ではあるけどたくさんの経験を積むことができ、やりがいも大きいと感じます。

キャリアコンサルタント(キャリア=経験 コンサルタント=指導)は、就職の事だけでなく、一人ひとり異なった夢や性格、事情があるので、**人生相談に乗ることもあります**。これも、僕を成長させる良い経験になっていると思います。



—就職して知った事—

社会人って優しい

就職する前は、上司と社長と話すときは、「こうしなければ」という固いイメージを持っていましたが、この会社で、上司にも気楽に話せて、良い信頼関係が築けています。「**社会人でも優しい人はたくさんいるんだ**」と知りました。

大手の会社や古くからある会社だと違うのかもしれませんが、弊社のように若い人が多いとみんなの年齢が近くなるので話しやすい雰囲気があり、上司に言いづらいということもなく、**良い信頼関係が築けているのだ**と思います。



—中学生時代の後悔—

世界一明るい不登校

中学2年生の時に不登校でした。いじめや不良になったわけではなく、両親への反抗心から喧嘩した時に「俺はスポーツで生きていく。両親がそこまで勉強を強制するなら勉強をボイコットする。」という思いから不登校になりました。両親は勉強に厳しい人で、頭の良い姉と僕をいつも比較していました。勉強よりテニスを頑張りたい僕は、姉のようにはなれませんでした。それでも、両親は勉強をもっとやりなさいと言い続けテニスは応援してくれませんでした。不登校になった1年間は、授業に出ず部活だけをしていました。そんなちょっと変わったことをしても友だちは変わらず普通に接してくれたので、不登校になっても明るい性格のままです。なので自分で世界一明るい不登校だと言っていました。



しかし、中学2年生の授業は基礎を学ぶものばかりで、基礎を勉強しなかったためにその後苦労しました。高校も大学も行きたいところには行けず、凄く後悔しました。スポーツの強い大学は偏差値も高く文武両道でないといけないから、スポーツ系に進むとしても勉強はしておくべきです。

みんなも中学時代は、思春期で親と喧嘩をすることが多いと思うけど、勉強はした方がいいですよ。



—今の夢—

目標への道のり

将来、テニススクールの経営者になりたいです。理由は、好きなテニスに関わりながら、たくさんの子どもに夢を与える仕事がしたいからです。中学校の時からテニスをやっていて、テニス選手やコーチになりたいと思っていたけど、高い技術や良い成績が必要な厳しい世界で挫折をしました。しかし、ふと技術がなくてもテニススクールの経営なら出来るのではないかと気づきました。僕は子どもが好きなので、たくさんの子どもに夢を与えたいとっていて、僕のように親にスポーツを反対されているような子どもにもテニスを楽しんでほしいし応援したいと思っています。コーチが子どもに夢を与えられるのは10人程度だけど、テニススクールの経営ならもしかしたら100人、1000人に夢を与えられるかもしれない。そう考えたら経営した方がより多くの子どもに夢を与えられますよね。



これからのプランとしては、30~40歳くらいまで経験を積み“起業”、黒字化できる安定した会社にして、その事業から出た収益でテニススクールを運営していきたいと思っています。始めの方は、絶対にテニススクールは赤字になると思っている為、安定した会社の黒字で赤字を補い、いつかどちらも黒字にしていきたいです。

これまでの、広告代理店や人材の仕事、新規事業、プログラミングの勉強などの経験はこれからのために活かそうと思っています。**夢のためにもっともっと様々なことを経験していきたいです。**



夢の深堀

なぜそこで働きたいのかを考えることが大事だと思っています。もしかしたら他でも自分の夢が叶うところがあるかもしれない。みんなには夢の深堀をしてほしいと思います。

僕の場合、多くの子どもにスポーツをやる楽しみを広めていきたい。裕福でない子や親に応援してもらえない子でも楽しめる環境を作ってあげたい。そう思い、コーチを目指しました。しかし、テニススクールで雇われるコーチでは、自分の好きなようにはできないので、コーチでは夢は叶わないかもしれないと思い始めました。それから、夢の深堀をしたことで、テニススクールの経営なら多くの子どもにスポーツをやる楽しさを広めたいという夢が叶えられると気づくことが出来ました。

僕の夢は自分の好きなことを好きな人に囲まれてすることです。それを叶えるためにテニススクールを経営して、仲間と一緒に楽しく仕事をしたいと思っています。夢は何か聞かれて職業を答える人が多いですが、職業は夢を叶えるための手段でなければならないと思っています。

自分の本当にやりたいことは何かを考えてみてください。

編集後記

今回初めて取材してみて、ジンジブのお仕事についてや渡辺さんの過去と今を聞き、たくさん学ぶことが出来ました。準備不足なところがあったので、次に取材をするときは、後悔しないように準備をしようと思います。

渡辺さんは色々なことをお話してくださって、最後には私たちの人生相談にまで乗って頂き、アドバイスをもらいました。「夢の深堀」や「職業は夢を叶える手段」という言葉が胸に響き、自分の本当にやりたいことを考えようと思いました。また、これから色々な人の夢を聞いて知識や視野を広げ、たくさんの経験をして成長していきたいです。

(取材日 2020年2月18日) 目白大学社会学部社会情報学科 巻島未奈

